

RETAILER ACADEMY NEWS

Apr 2018 | Bentley Motors Japan



ブランドこそがすべて

クリス・クラフト取締役（セールス&マーケティング担当）インタビュー

クリス・クラフト氏がベントレー モーターズの取締役（セールス&マーケティング担当）に就任したのは今年1月。それまでクラフト氏は、ポルシェ グレート・ブリテンのマネージングディレクターとしての職に就いていたほか、フォルクスワーゲンUKとシュコダUKのディレクターとしても活躍していました。ベントレーで新しい役割を担うようになって3カ月。クラフト氏がベントレーについて語りました。

Q. バックグラウンドについてもう少し教えてください。

クラフト: 私は事実上、キャリアのほぼすべてを自動車業界で過ごしてきました。ほんの短期間だけ銀行で働きましたが、自動車業界がもっとエキサイティングであることに気づき、これこそ私が愛する業界だと思ったのです。自動車業界では、量産車ブランド、プレミアムカーブランド、スポーツカーブランドで経験を積んできました。私がビジネスに携わってきたタイミングは、業績が非常に良いときというよりは、むしろひどく不調なときや、不況を乗り越えてきたときでした。また、リテールグループの運営にも5年半ほど責任者として携わりました。

Q. これまでの経験から学んできたのはどんなことでしょうか？

クラフト: 重要なことは、物事を必要以上に複雑に考えないことだと思います。問題が起きるとしばしば過度に複雑に考えがちですが、そうすると何も達成することができなくなります。メッセージがシンプルになればなるほど、行動を起こすことが容易になりますからね。

Q. 私たちのブランドの進化にとって重要な要素は何でしょうか？

クラフト: 私たちのブランドは、私たちにとって最も重要な資産です。決められたとおりに行動し、あらゆるタッチポイントにおいて正しく対応することが重要なのです。急速に変化し、すべてにおいて透明性が求められる世界のラグジュアリーブランドとして、この点は以前よりも重要度を増しています。したがって、私たちは自身のアライメントを行う必要があります。つまり、何を目指すのかを鋭く見直し、それに従って行動することに他なりません。

Q. リテラーにはどんなことを期待していますか？

クラフト: 私はパートナーシップに基づいて仕事をしたいですし、リテラーに対しては常にビジネスで「オペレーショナル エクセレンス」を提供したいと考えています。適切な人材が確保されていれば、組織が進むべき方向性が明確になります。常にそのプロセスに厳密に従っていけば、ポジティブな変化をより早く生み出すことができると、私は強く信じています。

Q. イノベーションはブランドの進化をどのように支援するものなのでしょうか？

クラフト: これは非常に重要なことです。私たちは身の回りの環境で起こっている変化を受け入れなければなりません。例えば、私たちはお客様が熱心に使ってくださるようなベントレー ネットワークアプリを開発しました。どの企業も独自のライブプラットフォームを求めるものですが、大多数がFacebookをはじめとする既存プラットフォームを使用しているため、これを実現するのは困難なことです。それに対し、ベントレーのお客様は別のプラットフォームではなく、ベントレー独自のプラットフォームを使用して画像やコメントを投稿しています。これは本当に重要です。なぜなら、オーナーシップの経験を豊かなものにするために大きな役割を果たすからです。ネットワークアプリが私たちのユニークで高性能な個人向けプラットフォームとなり、ベントレーとラグジュアリーの世界へのゲートウェイとして提供できると考えています。

Q. 近い将来、力を入れたい市場はどこですか？

クラフト: 最大市場の北米や、成長著しい中国が重要市場であることは間違いありません。しかし、ベントレーが進出している市場は、私たちにとっても優先すべき重要な市場です。ベントレーブランドがそこにある以上、可能な限り最良の方法でブランドが表現され、市場ごとの機会を最適化することが必要です。各地のお客様のご要望に応え、製品の提供を集中させていかねばなりません。

Q. データに基づく意思決定はどれくらい重要でしょうか？

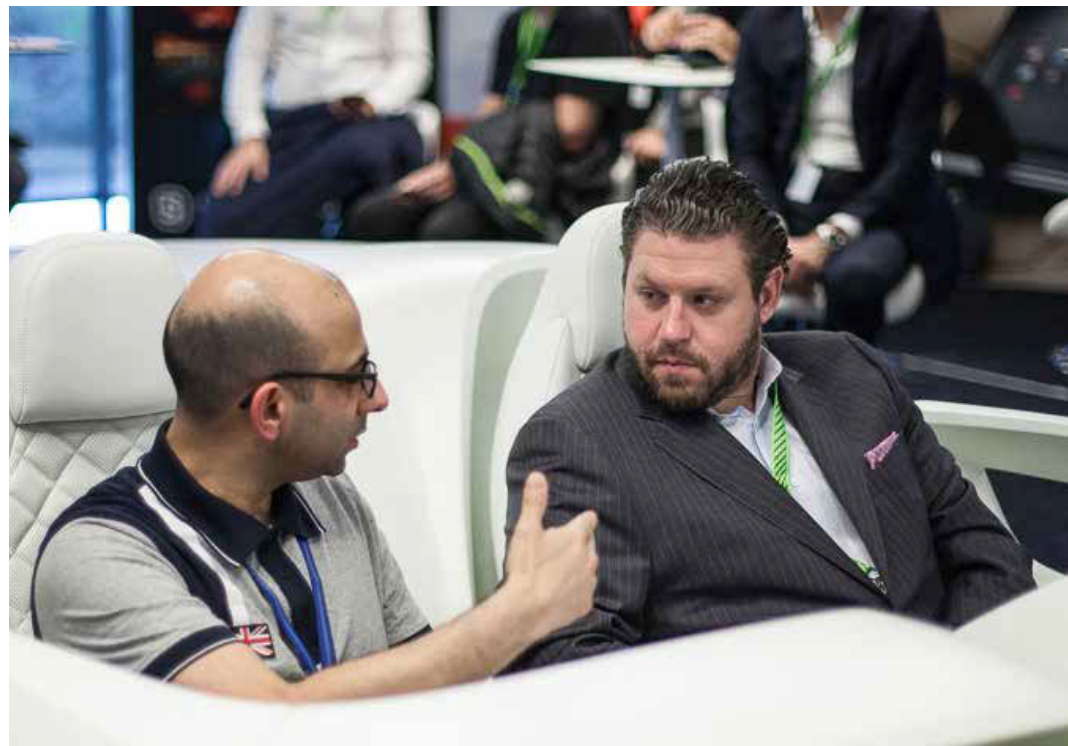
クラフト: この答えは非常にシンプルです。何かを決定する際には、データのみに基づくべきです。これは新しい取締役たちの考え方とも非常に似ています。個人の偏見に基づいて決定を下すべきではなく、事実を見て、自分たちの立ち位置をしっかりと理解することが大切です。しかし、私にとっては単なるデータではありません。データから得られる分析結果や、どんなチャンスがあるかという洞察力が重要なのです。

Q. 将来、データドリブン分析がベントレーのマーケティング戦略にどのような効果があるとお考えですか？

クラフト: この点については、私たちにとって重要度が増していくことでしょう。私たちのお客様に関する豊かで正確な情報を得ることは、非常に重要です。法律の範囲内で正しく行うことが大前提なのは明らかですけれどね。しかし、もしお客様を扱ううえで役に立つ優れたデータを持っているならば、私たちのブランドの個性、パーソナライゼーション、ビスポークなどの基礎となります。

グローバル リテラー カンファレンス開催 潜在顧客の発掘は Extraordinary体験が鍵

ベントレー モーターズはこのほど、世界のリテラーを対象としたグローバル リテラー カンファレンス 2018 をスペインのリゾート地・シッチェスで開催しました。今年2月1日に会長兼CEOに就任したエイドリアン・ホールマーク氏を筆頭に、新たにベントレー モーターズの取締役役に就任した役員も顔を揃え、リテラーにさまざまなメッセージを送りました。イノベーション、マリナー、マーケティングの3点にフォーカスしたワークショップを実施したほか、ベンティガ V8、ベンティガ ハイブリッド、新型コンチネンタルGTの試乗も行われました。今回はグローバル リテラー カンファレンスの一部をご紹介します。



KEY MESSAGE

エイドリアン・ホールマーク会長兼CEO

まずはここ数年のリテラーの皆様の努力とコミットメントに対し、感謝の意をお伝えしたいと思います。皆様のビジネスの進歩にあらためて敬意を表します。

ベントレーのブランドを認識することは、将来を築くうえで重要な資産になります。ベントレーはラグジュアリーセグメントのリーダーで、ラグジュアリー SUV 市場を開拓したパイオニアでもあります。ベンティガ ハイブリッドの導入は、今やお客様が最も関心を寄せる“幅広く持続可能

な世界を提供できること”を意味しています。ベントレーはラグジュアリーとパフォーマンスの究極の表現を、妥協のない1つのパッケージとして提供できるメーカーなのです。

ラグジュアリーマーケットは変化を続けており、なおかつ変化のスピードは私たちの予測を超えることもあります。私たちのターゲットとなり得る高所得者の数は2000年以来増えており、市場規模は1550万人とも言われています。しかし、まだ年間6万人しか高級車を購入していないという事実もあるのです。

私たちは、ベントレー ブランドの素晴らしさをよく知っています。素晴らしいチームと世界最高の商品は、私たちのこの上ない誇りです。将来への大胆なビジョンを実現するには、多大な努力を要します。今後も私

ちはメーカーとしての考え方をお伝えし、イノベーションを継続し、競争のあらゆる場面においてペースを上げて参ります。最高のパートナーであるリテラーの皆様をサポートをいただきながら、Extraordinaryなお客様のためにExtraordinaryなクルマを作り続けます。力を合わせて取り組みれば、ベントレーの将来は光り輝くものになることを確信しています。

クリス・クラフト取締役（セールス&マーケティング担当）

ベンティガ V8とベンティガ ハイブリッド、新型コンチネンタルGTの導入が意味することは、まずはロイヤリティの高いお客様の基盤を維持することです。これに加えて最も重要なことは、より若い方々やより多くの女性に向けてのアピールです。ベントレーの将来の核となるのは、ビジネスモデルを“プッシュ”から“プル”へと移行すること。計画的な生産により、在庫台数の引き下げに成功するという進歩がありました。次のステップとして、今年は将来的に私たちの製品に対する需要を創出することに焦点を当てていきます。よりエネルギーに、より効果的に需要

を創出し、より多くの潜在顧客にアプローチし、ベントレーの魔法をかけて私たちのエクスクルーシブなマーケットに迎え入れなければなりません。手と手を取り合って、これに取り組んでいこうではありませんか。

WORKSHOP

— INNOVATION —

最新技術がお客様にもたらす利益について、リテラーが大きな役割を果たすことに焦点を当てました。

ベントレー モーターズは明るい未来を描いていますが、そのために重要となるのが新しい手法と技術を取り入れることで、若い人々を魅了することです。セッションの初めに、よりスマートな技術や急速な都市化などの要因が世界を変え、「ラグジュアリーとは何か」と、それがお客様にとって何を意味するのかを再定義しました。

コネクテッド・カーのポートフォリオ、ネットワークアプリ、その他の未来志向のプロジェクトに代表されるこれらの製品とサービスは、ベントレーを競合他社と差別化します。リテラーに対しては、お客様が魅力に感じ、市場が求めるものを提供することになります。

リテラーは私たちのイノベーション戦略の中心的な役割を果たすとともに、その利益を受ける受益者でもあります。これは現在ベントレーが持っている、あるいは将来導入される技術製品やサービスのメリットを伝えるうえで重要です。そのため、リテラーはベントレーのブランドやビジネスの進化に大きな役割を果たしていると言えます。だからこそ、私たちは継続的なサポートを確実に行うよう努めているのです。

— MARKETING —

どのようにしてブランドを成長させ続けることができるか、リテラーに大きなチャンスをもたらす100周年に関するプランを紹介しました。そのうえでベントレーのブランド戦略とベントレーブランドの総合的なマネジメントが、ビジネスを成長させる原動力となることを説明しました。また、卓越した顧客体験を創造して提供することが、ブランドを強化し続けるのだという考え方の重要性も強調しました。

さらにカンファレンス参加者と共有したのは、ベントレーが2018年と2019年にフォーカスしているという点です。今年の“The Story of Be Extraordinary”と来年の“Tomorrow’s Extraordinary”という両キャンペーンを紹介しました。これらのキャンペーンで重要なのは、ベントレーの100周年を祝うことです。この目標は、高所得者層の見込み客をベントレーに引き入れ、オーナーのロイヤリティを構築し、より多くのクルマを販売し、ブランド価値を築くことです。リテラーがお客様とコミュニケーションを取り、ベントレーの世界観と私たちが提供する幅広い製品や顧客体験につなげる絶好の機会を作り出すのです。これらのキャンペーンは真の意味で、地域ごとに成果を生み出すために一元的に推進されるリテラー向けに作られたプログラムと言えるのです。

※ リテラー マーケティング ニュース内に「100 Years」という特設ページができました。キャンペーンの詳細などが随時更新されますので、その都度ご確認ください。

— MULLINER —

このインタラクティブなセッションの冒頭では、ベントレー モーターズのデザインディレクター兼マリナー ディレクターのステファン・シーラフ氏が、ラグジュアリーが意味することや今日の世界の人々にとって人と違うことが何を意味するかについて、参加者とともに考察しました。

カンファレンスにはマリナーとデザインチームの主要メンバーも出席。参加者に“今日から未来へと続くマリナー”について紹介しました。現在のマリナーが提供するものは、ビスポークとパーソナライゼーション、限定車、機能とデリバティブ、コーチビルディングなどです。リテラーはこれらの要素を詳しく知ること、どのようにお客様とコミュニケーションを取り、お客様からの問い合わせを増やせるかという点を理解しました。

マリナーの将来はエキサイティングなものになります。この部門は、お客様により幅広いラグジュアリーサービスを提供するため進化しています。セッションではジョン・ポール・グレゴリー氏（エクステリアデザイン責任者）が、限定車から家庭用品、プライベートプレーン、クラシックカーのレストアのためのデザイン・サービスまで、さまざまなアイデアを発表しました。



CONFERENCE

TEST DRIVE

—— ベンティガ V8 ——

セッションでは、まずベンティガ V8のキャラクターとドライバーが感じる楽しさが紹介され、参加者が試乗時にそれらを体験することができました。

最先端技術や至高のパフォーマンス、大胆なデザイン、絶妙なクラフトマンシップ、魅力的な価格といったこのクルマの重要な要素が、リテラーが新しいお客様にアピールできる機会を提供できることの理解を深めてもらいました。



—— ベンティガ ハイブリッド ——

ベンティガ V8の紹介に続き、あらゆるライフスタイルにマッチするベンティガと言えるベンティガ ハイブリッドも発表されました。参加者には純粋なパフォーマンスと静かなドライブの組み合わせを体験してもらう試乗の機会も提供しました。

参加者にはベンティガ ハイブリッドのセールスポイントを伝えるとともに、スタッフやショールームに関する準備を十分に行うようお願いしました。



—— 新型コンチネンタルGT ——

新型コンチネンタルGTは紛れもないグランドツアラーであり、参加者には競合車よりも優れている特長やテクノロジーを探し出してもらいました。

また、リテラーのセールス担当者がお客様に提示できる一連のパーソナライゼーションおよびアクセサリーのオプションと、そのコミッションについても説明しました。新型コンチネンタルGTに関心を寄せてくださる方の多くは第一世代からコンチネンタルGTを所有してくださるお客様ですが、新型のダイナミックなデザインは、リテラーがより若い世代の高所得者層を新たにターゲットとする機会を提供できることも理解してもらえました。



MULLINER

ベントレー モーターズはこのほど、英国の競馬に関する業務を統括する組織「ジョッキークラブ」とのパートナーシップ継続を発表しました。両者とも英国王室とのつながりがあり、芸術的な要素も多く、プリティッシュラグジュアリーとレースの伝統を体現する組織であることから、パートナーシップ継続を記念したベンティガの特別仕様車をマリナーが製作しました。このベンティガはグロスターシャーのチェルトナムで3月13～16日に開催された競馬の障害競走の祭典「チェルトナムフェスティバル」の会場で展示されました。

このクルマの外装は、伝統のプリティッシュ レーシング グリーンを現代風の光沢仕上げとしており、ブラックライン スペックと21インチ切削光輝アロイホイール（ブラックペイント仕上）などによるアクセントが施されています。内装はビスポークのツイードがCumbrian GreenとSaddleのレザーカラーと調和しており、洗練された見た目を保ちながらユニークなカラースプリットがこのクルマのパフォーマンスとポテンシャルを表現しています。ツイードにはライトブルーのコントラストステッチを使用し、ドアトリムとシートのキルティングにアクセントを付けています。ウッドパネルはBurr Walnutで、ジョッキークラブのプライベートルームにあるアンティーク家具を模した「ピクチャーフレーム仕上げ」としました。助手席側のウッドパネルには金色の競走馬のシルエットを描き、各シートには競走馬とジョッキーの姿を刺繍で描いています。

マリナーのUday Senapati氏（テクニカルオペレーション責任者）は、「チェルトナムフェスティバルは世界で最もよく知られる競馬イベントの1つ。このフェスティバルのユニークな会場は、世界で最もラグジュアリーなSUVのショーケースとして完璧です。乗馬のライフスタイルから深いインスピレーションを得たマリナーのチームは、このクルマを開発するにあたって新しい素材と技術を初めて使用する機会を得ることができました」などとコメントしています。

ジョッキークラブ仕様のベンティガ登場 歴史と伝統のコラボレーション





4ドアスポーツカー市場活性化の予感 メルセデス AMG GT 4ドア クーペ

ダイムラーは、同社のスポーツカー「メルセデス AMG GT」の4ドアモデルとして、「メルセデス AMG GT 4ドア クーペ」をジュネーブ・モーターショーで発表しました。同車は2017年のジュネーブ・モーターショーで「メルセデス AMG GT コンセプト」として発表されたコンセプトモデルを市販化したもの。モーターショー会場でも大きな話題を呼んでいました。

AMG GTのデザインをファストバックで実現

このモデルのコンセプトは、2ドアスポーツカーの持つサーキットやレースでのダイナミズムを、日常での使用に最適な方法で融合させること。そのスタイリングは、文字通りスポーツカーのメルセデス AMG GTを4ドア クーペとして新たに解釈したものです。2つのパワードームを備えた低く長いボンネットと筋肉質なボディスタイリング、そして開口部の大きいエアインテークやリアディフューザーがAMG GTの血統を感じさせます。



CLSベースのシャシーでパフォーマンスと快適性を両立

ベースとなるモデルは、スポーツカーのAMG GTではなく、現行Eクラスおよび新型CLSとなっています。これはフロントミッドシップエンジンとトランスアクスルレイアウトのAMG GTをベースにした場合、ノーズが長くなることに加え、後席の居住性やシートアレンジが大幅に制限されることが最大の理由。また、後輪駆動のAMG GTに対して、現行Eクラスおよび新型CLSでは、全輪駆動の4MATICが搭載

可能という理由もあります。実際にAMG GT 4ドア クーペでは、可変トルク配分を備えた「AMG 4MATIC+」を全車に搭載。これにより、ハイパフォーマンスを誰にでも安心して楽しめるスポーツカーとしています。サスペンションは、可変ダンピング機能付のコイルスプリングとエアサスペンションの2種類を用意。また、「AMG GT R」譲りのアクティブ・リアアクスル・ステアリングも設定されます。

エンジンの違いにより3種類のモデルを設定

搭載されるエンジンは、AMG GTをはじめ多くのAMGモデルに使用されている4.0L V8ツインターボと、新世代の3.0L 直6エンジンの2本立て。

まず、V8モデルの標準仕様となるAMG GT 63 4MATIC+では、最高出力585 ps、最大トルク800 Nmを発揮。これはAMG GTのトップモデル「AMG GT R」の最高出力585 ps、最大トルク700 Nmを上回るもので、0-100 km/h加速もAMG GT Rより0.2秒速い3.4秒をマークします。さらにトップモデルのAMG GT 63 S 4MATIC+では、最高出力639 ps、最大トルク900 Nmを発揮。0-100 km/h加速3.2秒、最高速度315 km/hというスペックは、この4ドア クーペが名実ともにAMGのハイパフォーマンスモデルであることを物語っています。

また、3.0L 直列6気筒エンジンを搭載した、AMG GT 53 4MATIC+も設定されます。オルタネーターとスターターの機能を兼ねた電気モーターをエンジンとトランスミッションの間に配置することで、ハイブリッド車のような高効率と高出力を両立。さらに低回転域で過給を行う電動スーパーチャージャーとツインスクロールターボチャージャーを併用することで、低回転域から力強いトルクを発揮。最高出力435 ps、最大トルク520 Nmを発生させます。

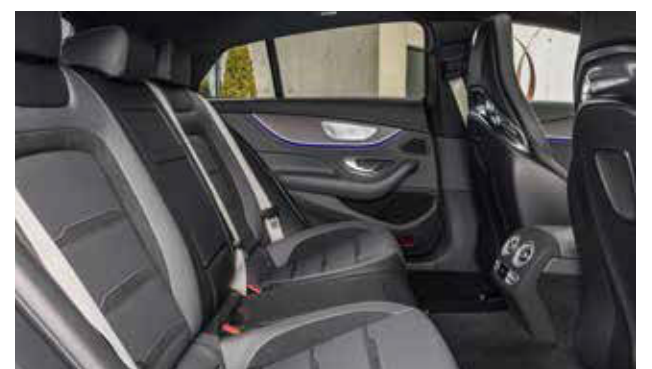


先進性と実用性の高さを融合したインテリア

特徴的な2画面式のワイドスクリーンディスプレイをはじめ、基本的なインテリアデザインはEクラスおよびCLSに準じています。独自性が感じられるのは、V8デザインのフロントセンターコンソール。AMG GTと共通のデザインエレメントを採用することで、スポーティな印象を高めています。



リアシートは、分割可倒式の3人掛けタイプに加え、左右シート間にセンターコンソールを備えた、2人掛けの独立シートを設定。センターコンソール内にはタッチパッドスクリーンが配置され、さまざまな機能呼び出すことができます。



用途に応じて4人乗りと5人乗りを選択できるリアシート

メルセデス AMG GT 4ドア クーペのライバルは、ボルシェ・パナメーラ、アウディ RS 7 スポーツバック、そしてアストンマーティン・ラピッドなど世界最速クラスの4ドア・グランツーリスモ。最高速度300km/h超の4ドア クーペ市場が今後激戦区になる可能性があります。現時点で日本導入時期は未定ですが、本国では2018年夏に販売が開始されます。

ベントレー本社クルーで 英国最大規模の太陽光発電システム導入へ



ベントレー モーターズの本社がある英国のクルーでこのほど、太陽光発電パネルを駐車場に設置する工事が始まりました。工事では従業員用の駐車場に約10,000枚の太陽光発電パネルを設置する予定で、完成すると2.7メガワットの電力を発電することが可能となります。これによりベントレー本社で使用する電力の約24%を賄うことができ、CO2排出量は年間で3,300トン削減できます。ベントレー本社ではすでに工場の屋根に約20,000枚の太陽光発電パネルが設置されており、これらと合わせるとパネルの数は30,000枚以上になり、英国最大規模となります。

ピーター・ボッシュ取締役（マニュファクチャリング担当）は、「将来のモデルに代替パワートレインを導入しようが、工場が環境に与える影響を削減する取り組みで賞を受賞しようが、ベントレーはこれからも環境対策へのコミットメントの強化に取り組んでまいります」などとコメント。ラグジュアリーカーブランドにおける持続可能なビジネスモデルの構築に注力していく考えを明らかにしています。

ベンティガに 指紋認証セキュリティシステム



ベントレーのビスポーク部門であるマリナーが、ベンティガのアームレスト下にある収納のロックとロック解除を指紋認証で行うシステムを開発しました。指紋認証の収納スペースは、高圧成型のアルミダイキャスト製で、上面に指紋センサーが設置されています。一見すると控えめなボックスですが、駐車したクルマから少しの間だけ離れる際の貴重品の保管に理想的です。

また、複数の指紋を登録でき、指紋センサーはスマートフォンとも連動させることができるので、貴重品にアクセスできる人をユーザーが管理することが可能です。この収納ボックス内にはUSBポートと電源ソケットが備えられているため、同乗のお客様が携帯端末のバッテリー残量を気にせず、Apple CarPlayをはじめとする車内エンターテインメントを楽しんでいただけます。

※日本での導入については、後日ベントレー モーターズ ジャパンよりご案内いたします。



パイクスピークのドライバーとして リース・ミレンと契約



ベントレー モーターズはこのほど、米国で6月24日に開催されるパイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムのドライバーとして、過去に2度のパイクスピーク優勝経験を持つニュージーランド人ドライバーのリース・ミレンと契約しました。ベントレーがパイクスピークに出場するのは初めてですが、ミレンとベンティガのコンビで市販SUV部門での新記録樹立に挑みます。

パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムは、全長12.42マイル（約19.9km）で、156ものコーナーが続く難コースで行われる、世界有数の過酷さで知られるヒルクライム。ミレンの父はパイクスピークで5度の優勝経験があるロッド・ミレンで、親子でヒルクライムのスペシャリストとして名を馳せてきました。

リース・ミレンは、「ベンティガでパイクスピークに挑戦できる機会をいただき、本当に嬉しいです。先日、クルー本社を訪れた際に、あらためてベントレーのクラフトマンシップに触れ、感銘を受けました。ぜひ、市販SUV部門での新記録樹立を実現したいです」などとコメントしています。

パイクスピークで使用するベンティガは、クルーにあるベントレーのモータースポーツ部門でテストと調整作業が行われていますが、できる限り販売されている標準仕様に近いものにする予定です。

オマーンで新型コンチネンタルGTの 研修を実施



去る4月19日～20日の2日間、オマーンのマスカット市にシャングリ・ラ パール アル ジサ リゾート & スパで新型コンチネンタルGTのプロダクト研修を行いました。世界中からベントレーのスタッフが集まるこのグローバル研修には、日本からは23人のセールスおよびアフターセールスのスタッフにご参加いただきました。

今回の大きな目玉は新型コンチネンタルGTの試乗でした。参加者の皆様は6台の試乗車を交互に約30～40分ドライブ。市街地、ワインディング、高速道路を想定したルートを走りながら、各ドライブモードを試したり、加速感やステアリングフィールを確認したり、新型コンチネンタルGTの走行性能を熱心にチェックしていただきました。

参加者の皆様の試乗インプレッションは、次号のリテラー アカデミーニュースでご紹介いたします。



JC08、NEDCからWLTPへ

これまで世界各国で異なっていた燃費の測定方法を統一しようという動きがあります。それがWLTP（乗用車等の国際調和燃費・排気ガス試験方法）です。
日本や欧州でも導入が始まった新制度は、いったいどのようなものなのでしょうか。



BENTAYGA HYBRID

ベンティガ・ハイブリッド	
市街地：	—
郊外：	—
混合：	—
CO2排出量（混合）： 75g/km	



BENTAYGA

ベンティガ	
市街地：	19.0L/100km
郊外：	9.6L/100km
混合：	13.1L/100km
CO2排出量（混合）： 296g/km	



CONTINENTAL GT

コンチネンタルGT	
市街地：	17.7 L/100km
郊外：	8.9L/100km
混合：	12.2L/100km
CO2排出量（混合）： 278g/km	

各国で異なる燃費表示を統一

これまでクルマの燃費・排気ガスに関する試験は、日本のJC08モード、欧州のNEDCとあるように、国ごとにバラバラに行われてきました。しかし、それでは効率が悪いということもあり、国連の自動車基準調和世界フォーラムによって、新たな試験方法が2014年に採択されました。それが「乗用車などの国際調和燃費・排気ガス試験方法（WLTP）」です。これによって一度の試験で複数の国での認証に必要なデータが取得できるようになりました。日本では2016年から、欧州でも昨年の秋から導入がスタート。これから登場する新型車には、徐々にWLTPでの燃費測定が行われることになります。ただし、表記に関しては、欧州では100km走行あたりに使う燃料量である「L/100km」、日本では1リッターで走行可能な距離を示す「km/L」が継続して使用されます。

WLTPの特徴

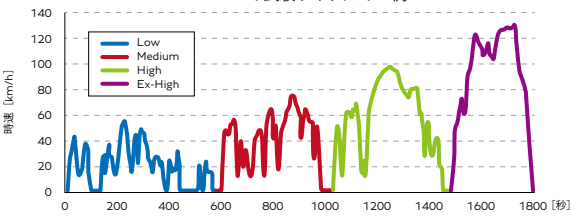
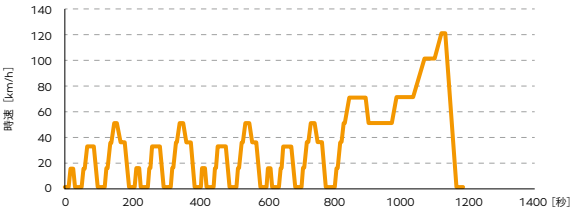
WLTPでは低速フェーズ、中速フェーズ、高速フェーズ、超高速フェーズの4種類の試験サイクルで計測が行われます。ただし、超高速フェーズは国によって除外可能です。テストの内容は、日本のJC08モードだけでなく、欧州のNEDCモードと比べても、WLTPは速度域が高く、走行時間も距離も長くなり、また、エアコンなどの装備品も含めるなど、内容は、より厳しいものに。リアルワールドの実燃費に近づくものとなっています。

CO 2排出量が表示される理由

燃費性能の表示としてCO2排出量が掲載されるのには理由があります。それはガソリンとディーゼル・エンジンで使用する軽油は、CO2の含有量が異なるからです。1リッターあたりの燃料で比べると、ガソリンより軽油はCO2含有量が1割ほど多くなっています。そのためL/100kmや、km/Lといった燃費性能表示では、ガソリン・エンジンとディーゼル・エンジンでは、どちらが、より多くのCO2を排出したかわかりません。そこで、具体的に1km走行あたりのCO2排出量を表示しているのです。

日本ではWLTCという表示

日本ではWLTPの導入にあたって、超高速フェーズを除外することになりました。そうしたこともあり、新方式の名称は「世界統一試験サイクル WLTC：Worldwide-harmonized Light vehicles Test Cycle」に。また、表示は、総合のWLTCモードだけでなく、「市街地モード」「郊外モード」「高速道路モード」も併記されることになりました。

	特徴	表示	テストサイクル
WLTP	国連自動車基準調和世界フォーラムによって2014年に採択された試験法。「乗用車等の国際調和燃費・排ガス試験方法（WLTP：Worldwide Harmonized Light vehicles Test Procedureの略）」。 試験走行時間は30分で最高速度は131km/hとなる。	コンバイン（混合）： 00L/100km 市街地： 00L/100km 郊外： 00L/100km 高速： 00L/100km CO2排出量： 00g/km	<p>WLTPの試験サイクルの一例</p> 
NEDC	欧州で1996年に導入された燃費試験方法が新欧州ドライビングサイクル（NEDC）。13分間の市街地走行を模したモードと、400秒間の郊外走行を模したモードの2つのテストを実施する。最高速度は120km/hとなる。	コンバイン（混合）： 00L/100km 市街地： 00L/100km 郊外： 00L/100km 高速： 00L/100km CO2排出量： 00g/km	<p>NEDC</p> 
JC08	2011年より導入された日本独自の燃費測定方法。冷機状態と暖機状態のそれぞれで、約20分（1204）の走行試験を行い、その結果を冷機25：暖機75の割合でミックスする。最高速度は81.6km/hとなる。	00km/L CO2排出量： 00g/km	<p>JC08 モード</p> 